



南總里見八犬傳第四輯卷之二

東都 曲亭主人編次

第三十三面 食小文吾夜麻衣を喪ふ

現八郎遠く良薬を求む

信乃見八丈五兵衛木も今蘆原き人ふらうとも呼うされ。三人齊一目を  
あつ。のふけまよと躊躇程ふその入水際より下枝く船く船ふ進み近づき抱だき  
袱色を左のそそ取ぬ。頬かむりせりも拭を鮮く額の汗を拭ふ。船かむり  
掛る。とくをまへ是別入ゆ。大田小文吾もれい丈五兵衛へ呆と果て。腹す  
しの声どぬり立わ。不覚す。白物が祭祀の神酒か酔ふもん場所もんちま  
戯言す。可惜膽を潰さ。然とも和郎ハ義も理も立まつて。この人の仇くま  
底意ある故ふ。口走りけ。款と敦園たぐひ懲せ。見ハ後方よう。袂を振て



是則見へぬ。もと此彼の厄難奇遇彼玉のみ。癌のる。孝心義膽異聞珍  
説緯の顛末をうち雪くか。怪しくも幸う。裁こととも亦その人こと過世ある  
つを知る。歡び辭言ゆめのをが。とくちく對面せんや。とどひく又引ひす。  
婢兒們を出でし。彼人を伴ひ。すまゆふ影護えり。宿所か還りく。物と整  
復あふ事。迎えしを。對面きよとも遙か。胸ふ揣すく。宿所は退れ婢兒們  
みハ身の暇を取らしく出で遣へ。暮かる日の便りす。門を鎖して背門より  
出再び。あふ事く見えず。あれ言果ぬ大人の長譚。某が人物とけふ説誇。ア  
エハ傷痛くゆひたと意中を告とば。大兵衛ハ笑ひ穴うる頭を擣。汝ハ年あ  
えつけども親のまゝ思慮深う。とも知らずとぞ敬鷹さと腹をもとふ。おど  
るまく川の親の役をとよ。誘賓客と伴ひ先ふ走りて案内せ。とのひ  
あて立んとほを小文吾。要時と推禁め。や黄臂小うり。と市中へ祖  
園會小姓及ぶ人。門毎小掛。燈籠もえす。小大飼ぬの打防の異うを。と  
怪ひ。加以大塚ぬの衣も。脇半袖小染う。あれらのひを忍耐をひ。短長不便  
の物きべり。と。單衣をのと。本より。のと。不脱。うえを。と。のひ。件の袱包と  
船の板みうち乗。推轉し。解掛け。内より。と。西口の刀々見せ。やう。當天下  
こだ。小文吾へ信乃と見へ。ふうち對ひ。この棒掲の單衣も。二田山木綿で。又。脅さう  
あく。うけ。と。二彦あく。脱更衣。衣の間。布の列衣も。一條。次。二條あり。布の  
中。み。貝。又。龍。膏藥も。と。そハ相撲うひ。掲瘡。も。撲傷。も。用ひ。  
效あり。う。各。位金瘡ふ。よく打。そ。布を。き。く。卷。就中。大塚ぬの腰の  
内。軽け。この両。ハ。の。ね。う。比。あ。人。よう。購得。と。両。ヒ。帶。る。と。ま。あ。う。ね。よ。も。こ。ろ  
價の廉。が。ま。と。小。ヒ。銘。あ。と。も。焼刃の。匂。の。銳。刀。う。ぐ。い。一。バ。漫。欲。と。ふ。買  
と。ま。と。親。ゆ。り。と。叱。ら。き。あ。た。當。坐。な。う。り。帶。の。り。車。う。ん。と。真。が。ま。く。件。の

画刀を贈る。又信乃へ進寄て跪き。恭しく受納め。嚮て某許我の御所より不意小敵を蒙り。刀を取つ暇も。且く柱と透き窓ひ先へ進みて一人の刀を奪つて戦ひ。そとモト竟か折もこれべ身のす鐵を無く。少く更る衣のままで。かくまじ心代用の如れ。賜めハ千金あり。和殿の俠氣と勇力ハ公羽の物語小詳。又只の義勇のまわり才幹遠慮す。

兄あり。とて眞の同胞兄弟有る。かぶん恩義。シテと大ききぬ。見ハ亦小文吾。綽倉卒の間。食あく心を盡する。惠を謝。信乃と共に小手をす。衣を脱更く。送ふ。挂てその凌廻を布り。卷々結が程小文五兵衛ハ。子の才覚。譽らむ。足る。親あふ。故に回小見れ。信乃見ハが脱捨する。衣も袴も。脇眉脇眉も。毛も。小間と。袱小推包にて。端引結。小文吾四下をアスリ。口不大へ。賓客達と。旅立て。還せり。

某ハこの船を推流し。後より退さん。袱包ハ。そがまゆ。釣竿と。立多。物と。心と。かの。と。公をつまむ。魚頭。信乃見ハをえさす。誘ふ。又籠口より。先へ退せん。されば許さ。と。船へ踏かく。親の足を濡さセド。そ。す。ま。ふ腰を抱け。小文吾よ。ゆきせば。も。あ。と。仰。も。う。放せく。とり。程。小。技。で。み。ま。ハ。水際。立ま。不。信乃見ハ。後方より。内どと。水際。ふと。立て。あて。大。哥。り。立。と。あ。翁。共。侶。宿。所。で。俟。ん。現。の。船。を。遺。一。措。バ。彼。草。隠。き。と。る。ま。と。と。野。鷄。の。尾。を。顎。ま。ふ。仰。く。左。右。又。和。敵。を。勞。ま。の。心。づ。く。仰。と。仰。小。文。吾。父。あ。と。そ。ん。宣。う。か。う。う。ゆ。と。こ。ら。の。る。が。懸。念。せ。ど。そ。遇。り。と。り。そ。せ。件。の。二。人。も。小。脅。を。折。め。小。文。吾。ふ。碎。一。別。小。文。五。兵。衛。が。後。る。跟。古。那。屋。を。投。誘。引。小。丈。吾。の。背。影。の。見。え。ぞ。あ。い。す。と。目。送。る。帶。揚。て。ひ。あ。う。小。結。直。り。と。脛。高。ふ。端。折。る。裳。精。悍。く。と。長。ち。う。服。掛。の。





居小檣と倒さる。立日を使ひとも目めどぬ。小文吾ハ祇包の寛を固く引  
よせ、結直ぐ歩早小脱まで宿所は選けり。少選く癪者へもまふ復  
すく身を起し。再び追々と踏坐を足小踢掛る麻衣をもとやく取て附く  
足。鳥夜小翳もく透す。身を領た莞尔とうち笑み衣推闊めて懷  
夾めく手を組頭を傾け思按も路次も引くと。塙濱の夕走ぬかア  
程小文五兵衛ハ信乃見八を伴ふ。橋籬の宿所小還せり。躰く背門ろ  
進入く。彼此小灯を点し。奥あやう子舎小件の二人を安措。もくもく酒  
食と安排。いと丁寧ふ勧くのやう。暑熱ハ毎年の事。此の六月ハ毎  
年すも雨ふる。間遠あまび。旅ほ人の勝ちやう。こらふ宿借るの稀  
あり。され嚮小嘆せし。彼簷倉さう大先達念玉坊との修驗者のみ。從  
者をばか逐く。ヨガ宿小只ひとり。朝逗留をくまども。そまも瀬邊小赴  
かま木ド。うり生ざれバ。そまも。婢兒們のみ在す。うが不自由うる人を  
とも家の内小他人を置ね。かく後半だる。物のひへ死折ハ掌鳴  
ふ。老を方あるく。軀をのきあらかと正首小冠も。信乃見八把竹  
箸をこ處く折敷ふ置く。恭へく。膝小掛老人のむかふ。かく丁  
寧小鄉食忘せ。厚意謝を。餘りあり。縦親戚朋友あり。凋落小  
室を。及び。及び。况咎ある人のゆ。縁坐の出止を怕はざく。誰う一夕も宿を。及  
凡人の親うち。その子の友のあら端も。義どく後難を憚る。翁のどくへ  
ふふ。ふふ。されどく翁をわづか日を累く。倘連係とあれば。後悔其れ  
立。も。令郎のつくりあら。就び承認成謝。今宵一夕晤言明。もく翌日  
明小度足を。と齊一辞もとを。そく何をりとすん市人を

且も亦武士の妻の腹下りせり。拙郎も俱ふ義を結く各佐と兄弟あつた。今  
子と孰う異きぞ。只ひよもくも。すくふをうせよ。こもかくもて舍藏さんやが  
も奢と抗ひ。ト他處より勤め慰めの飯を盛そえあつて。候待態の後  
えねば信乃見へ感佩し。豪傑の子へるのびき。その親も亦かくの如し。二重の粗  
人のうへあつど。皆吾們が幸ひとよ小遣にて限ふと。俱ふ嘆賞えうけ。饗  
膳も稍果る比。小文吾ハかりて坐。ひそよく癡者ふ抑留せず。桃一時。袱  
包綻び。信乃が麻衣を遺せらる。邊に折あふ鳥夜あり。されば心もへづき。  
云々。彼痴者へ人の懷ふもとかる。小偷児の類うじ。縛のあろを按する。彼丈  
蘆原よ躲ひ。舟の中う密談を竊。又ひのち。みだれ。こゆふと。云々。  
云々。彼痴者へ人の懷ふもとかる。小偷児の類うじ。縛のあろを按する。彼丈  
蘆原よ躲ひ。舟の中う密談を竊。又ひのち。みだれ。こゆふと。云々。  
簡便ふせんる。彼丈ふ埋伏せり。のち何ふまと。彼條の密談を外ふ洩ゆ。  
云々。實客の仇ふやう。小文吾これを使ひ。と二彦外意をあかかせう。  
云々。實客の仇ふやう。小文吾これを使ひ。と二彦外意をあかかせう。  
の所結を解卸し。措。戸棚へそがまを納め。戸を引閉。舎と子舎ふ分け。が  
信乃見へも致ひ。ゆく。席を譲り圓居し。すくと厚顎父子の恩義を。謝  
むる言の葉濃す。小文吾これを使ひ。と二彦外意をあかかせう。  
のうふ思ふ。と謝せ。あんや。その志同じ。けまへ千里の遠きものと  
親く。その志異き。合璧も究めく疎う。墨裏ふ某犬飼ぬと。義を結び。云々。  
兄オえ彼玉のう。癌のう。おまくとも古えふ臨く。その憂變を共ぬ。と。さうを  
犬飼ぬのう。と。大塚ぬふも。避乗ふ。おまくとも古えふ臨く。その憂變を共ぬ。と。さうを  
某。即ち蘆原ふ。縛。大さふ。伏ふ。但その玉をうるさうのう。おまくとも古えふ臨く。のう。  
といひ。懷の紙極き。古今襪の代衣。探す。一顆の玉を取ぬ。信乃見へ  
示す。あん。兩人も亦玉をどう。生と。三を一つ合ひ。其。俗ふ。すと。伏ふ。おまくとも  
やう。おまくとも。同じ。只。その玉ふ。顧。孝悌信の二字を。あく。あく。主ふ。おまくとも。

又今ゆうのゆみかはえく。うちとく齊一感嘆をかく。  
ちく玉を立ちちく。舊の如く小取納え。丈五兵衛へ教へ。小文吾ふらむ粉ひ玉  
のゆみへ墨裏ふりのる。とが傷ざる残諦せよ。緯の序ひ汝が癌を二彦よりせよと  
りふ小文吾ゆくうち微笑え。某が癌も所見あらず。忍せおねえせんへせれられ  
ども親の言ハ背れぬ。許一爻。とりひけく帶引解く。衣を退け。背向ふ。うそ  
あれ。丈五兵衛ハ行燈の灯口を其方に向うける。當下信乃見へ。目と斜  
めにこまとう。小文吾ゆく袖をとほり。ひだりと帶を結ひ。信乃ハこれを見えり。  
うち敵まよバ。小文吾ゆく。現その形牡丹ふ似う。兩人只顧稱賛。脱る單衣を  
き。腰肉小黒。死癌あり。曲日共公。重耳ハ駢一脅のあやまと。伊豆く竊ふ。これと見えまく。欲き。その臣釐負羈  
諫どとも聽う。重耳が谷とて小廟窺。淮南子。曹君頻小廟耳の駢脇。皆全く  
重耳覓。小元を恨す。重耳が圓小返す。位は即小及く。遂ふ兵を起し。曹を伐  
共公を虜。勇氣く。件の辱。小報のとひ。重耳ハ晋の文公と互う。圓語史記。小  
載。三六書を讀み。ひのちとあきども。大田生へ。これと異く。年來相撲を経て  
あり。肌膚を見るとも嫌ひあらず。あれども。その見えたの叶をほんせらる。莫逆の  
交友と。まことに慢侮の咎めあらず。ひが癌は是あり。とりひく偏祖を示せ。小文  
二友のまうと。彼大川サ助。義任。假名額藏と呼ひ。のり。癌も玉も亦相ひ。あら  
この圓坐。小彼一人を廟とぞ。送憾。是彼額藏のサ助。が人と。取りへ。如此く。そ  
箇様こと説示。この玉のゆみ。癌のゆみ。因果何木の所以。を知り。ゆ。墨裏ふるが  
の邊愛う。与四郎と名づけ。犬の亡骸を。庭う。梅樹の下。小塗。ふとの梅明

年実を結びて八房小生る。あめ梅子小文字頭と仁義礼智孝悌忠信の八個字定めを讀むないとも不思議の事ある。採くその實を藏めたる核を今も内に有る。文字は乾くる皮肉と共に失く亦きなぐれど、この核は圓くして微小である。各秘藏の玉が似う。初彼梅の八房小生る。然る出せば某とサ助の事當時兩人名ひさかう。あの梅小頭と。文字はもろい形とよく吾ホガ正小似ゝ。且玉を秘藏する外も亦わぶた秋わらみ。凡そ其と某とサ助の事當時兩人名ひさかう。あの梅小頭と。文字はもろい形とよく吾ホガ正小似ゝ。且玉を秘藏する外も亦わぶた秋わらみ。必とぞとがぬよ異姓の兄弟あるべし。と嘆ひて。毫差へて今又てふ大飼犬田の画死友を以て四人がありす。他の外小もろいあぶ久後いを懲りてからん。餘びの事とおもひて。と言細かく小説示せば丈五兵衛の膝を進め耳と側に驚嘆し見まんこ。また小丈五呂も又瘦く小奇異の懷をせらるゝ。過世の契と感悟と額藏のサ助とのと慕へくもひきかく見ハ傷かあむけり。盃を改め。信乃小丈五呂小勧め。丈五呂の兄弟。義を結び。樂を共ふせども憂を與ゆ。是に同日小生れ。是を同日小死す。と近事小者丈五兵衛も亦死す。肴と贈。盃を勧ふ。信乃見八事。刀瘡あり。六盃を受て酒を喫ま。翁ハ日暮ら。命の親へ又令郎小丈吾と。異姓の兄弟。義を結び。樂を共ふせども憂を與ゆ。是に同日小生れ。是を同日小死す。と近事小者丈五兵衛も亦死す。肴と贈。盃を勧ふ。信乃見八事。父小丈吾。某聊も旨あり。また丈五呂も。其某在宿せ。日ハ。心成用ひ。昨今止宿の旅人へ。心成用ひ。昨今止宿の旅人へ。心成用ひ。丈五呂。只彼人の事。いぬ。日ハ。懐の相撲。房ハ。恨。妹夫と。こそ放さず。殃危其刃。よう。殺ケ。女。亦知。人。某世上の人氣と考。つ。増。て。あぶ。この二事を他所へ移さん。そち機。ふ。臨。變。小。心。と。せん。と。之。へ。あ。る。れ。ども。ちろの。ぬ。ま。う。の。と。つ。あ。甲。夜。小。蘆。原。と。走。卫。墓。下。一。癒。者。の。と。ふ。

かくちスホカシテアリ。と云知ら称ども。文五兵衛ハ寔シホ然トキ。と応ケル。見八  
三郎。うち皆く視みれを領へ。千葉ハ宿我殿の躬方ち。且横堀在村ヘ  
その精忌を逞し。渠見ハハ悉き。犬塚生と義を結び。遂電せ。と傳。又  
え。犬塚主より某を。う。憎む。甚。か。某人の視聽を避。あ。名を更。原。ま  
内。き。さ。び。見。八。の。見。の。字。ハ。養。父。の。字。の。隻。字。よ。う。ふ。資。だ。ん。ひ。ま。い。が。え。只。お。の  
ま。裏。玉。零。故。ふ。な。ま。に。寔。父。の。う。ハ。知。り。う。か。も。見。の。字。よ。玉。を。加。く。け。よ。う。現。八。と  
匂。佩。し。く。あ。る。や。と。應。べ。ぶ。見。ハ。今。宵。を。現。八。郎。と。改。名。信。八。也。具。假。字。善。て  
唱。ん。と。う。れ。い。ふ。と。相。譚。ベ。信。八。小。丈。五。ハ。見。ハ。う。かる。時。ふ。も。親。を。忘。れ。ぬ。養。心。を  
感。佩。し。く。あ。る。や。と。應。べ。ぶ。見。ハ。今。宵。を。現。八。郎。と。改。名。信。八。也。具。假。字。善。て  
入。の。耳。目。と。避。ひ。ま。い。の。と。夜。ハ。も。や。深。く。子。の。半。更。歎。と。脅。先。小。頻。よ。門。を  
敵。く。身。わ。や。小。丈。吾。ハ。戸。口。ふ。り。あ。な。く。呼。門。ハ。誰。そ。と。向。ひ。そ。の。人。生。く。声。を。ゆ。立  
已。ハ。塙。濱。の。鹹。四。郎。う。神。興。洗。の。ひ。ま。ふ。濱。四。杜。者。共。大。く。禪。諍。を。き。ま。

よ。と。怪。我。は。リ。夕。も。亦。ヨ。ス。う。そ。中。ゆ。あ。の。相。撲。の。弟。子。も。わ。モ。ス。市。川。る。  
家。事。ま。る。山。林。房。ハ。が。引。る。も。ち。一。中。夜。ふ。と。甲。乙。裁。判。し。く。双。方。を。和。解。し。よ。る。敵。り。る。  
他。所。の。お。せ。あ。五。六。小。夜。の。三。深。く。事。届。く。閑。取。り。あ。た。く。ど。も。か。も。折。り。く。  
ち。の。ね。く。數。計。の。れ。も。待。て。を。す。と。く。と。り。そ。不。せ。ハ。小。丈。五。口。伏。て。舌。う。ち。鳴  
ら。う。折。も。折。き。奴。原。が。仇。閑。諍。を。有。る。ゆ。そ。こ。ま。六。親。仁。が。暑。暑。小。中。ら。れ  
婢。兒。们。も。走。百。病。と。人。隊。走。り。出。る。恒。も。あ。る。奴。玉。あ。ぐ。神。興。の  
供。奉。小。立。き。ま。た。ま。ふ。と。敵。手。ハ。市。川。人。す。く。山。林。が。弟。子。あ。る。が。伏。る。あ。る。ぬ  
貌。も。ぬ。氣。金。ど。没。ち。先。へ。と。走。と。追。續。く。と。金。ゆ。ん。人。騒。一。の。奴。原。あ。と。の。ハ。代  
減。四。ハ。サ。交。を。然。ば。閑。取。僕。を。う。と。朱。ま。舟。と。期。を。推。く。足。音。高。く  
走。去。る。小。丈。五。口。不。ま。小。又。子。舍。ふ。赴。死。と。二。彦。を。禮。を。う。や。う。ノ。奴。大。人。  
令。用。邊。ま。と。云。云。と。の。の。大。多。の。濱。邊。の。の。多。癡。あり。高。吉。あ。是。が。供。え。え。

毎年の祇園會。生ぬまきは日本。甲夜より从龍をり。又今を海ゆする。  
疑ひて短夜のうみあまが明かり。還すかうえ。大人ハ賓客達を臥す。  
戸鎖と寝まい。又とひ文五兵衛をせめ。眉根をよせ。頭を傾け。  
壯者少く醉狂。打内擲とももと。又あめづら。又も敵せ。市  
川人すく快く。房へ。弟子多く。彼れより物ぞみ。枝り。道をせん。  
人の喧嘩を買ふ。かよ。とり。小丈五口。微。笑ふ。そそ。あらぬ。負腹  
立る房へ。横小車を推す。とも直う道を直す。某と何う。とぞ。と  
を。膽。懷紙を。さろく。と。引。列衣。一條長く。一條短く。皆絆。左手。小取り。  
小丈吾よ。和郎があの。もの。不簡と。彼。へ。ひだり。氣の。立と。死の。不簡とも  
争ふ。和郎。十六歳の。と。死。枷櫂の大太を結果。す。折小誓言立て。  
人と争ふ。と。人を打。大刀を帶ると。も。刃を抜く。とり。ひつ後。物諍ひを  
せ。と。立。度の。確軌。へ。外。まし。又。腰刀を。且。か。こ。せ。との。ひ。取。て。腰。小構  
之。性的。紙索を。鷹の。透。と。鋪。小引。融。楚と。結び。傷。小措。小丈吾。が。右。の。手。  
胸。前。近。く。引。よ。又。紙索。右。の。巨指。李指。の。本。之。紏。結。餘。れる。端。を。引。繋。れ。  
小丈吾。ハ。果。果。と。の。を。あ。あ。と。間。せ。も。果。毛。支。五。兵。衛。と。腋。刀。の。鞞。握。て。腰。め  
ウ。立。親。の。毛。を。子。ハ。知。う。と。紙。索。ハ。脆。き。ぬ。あ。と。も。結。び。と。刃。を。用。る。手。引。走  
ご。立。親。の。毛。を。子。ハ。知。う。と。紙。索。ハ。脆。き。ぬ。あ。と。も。結。び。と。刃。を。用。る。手。引。走  
名。ハ。瓦。破。え。い。と。も。易。け。と。ど。破。と。非。法。不。孝。と。大。刀。へ。則。男。子。の。精。神。身。を  
護。る。德。と。ゆ。と。人。を。砍。と。死。為。丈。佩。と。兩。と。則。使。役。の。至。宝。萬。事。を。辨。ち  
徳。ゆ。の。ミ。人。を。打。死。物。よ。あ。と。縱。ひ。く。ど。腹。立。く。忍。ひ。く。死。る。み。あ。と  
も。あの。紙。索。の。絶。易。く。絶。ば。再。び。結。び。う。と。ひ。え。と。堪。か。以。が。親。小。蒙。を。  
被。す。か。と。生。平。死。す。と。義。理。深。在。庭。訓。小。小。丈。吾。ハ。恭。く。て。応。も。ぬ。せ。と。頭。残

低く居るだけの信見現八もあを底付く。おどりて嘆賞し。通微妙に教る。  
心より字ハ鎖か似ゆ。心の鎖をさせば。更則忍え忍びぬれをよくな。恨もう。  
悔もう。幸あまく難あむ。親あむぞ。誰えか。また篤く諭まぐ。身を護る  
神も佛も。親ふまとぬあべや。吾們既に二親す。是第一の不幸す。かる  
教を守く。子てもいと義く。とのがまと小文吾頭を擧。短慮へ功を成す。  
と口ゆり。一旦の怒ふその身を咎ぶ。咸らま下親の因胸小的膽承徳す。  
又大入あ。う戒安へ。某既に三四個の雑傑の下に列る過世あむけり。と  
覺生。この身ハ千金萬金へり。一旦の怒小寒。親を亡と友ふ負ぐの。  
愁をあひ。夜を倘二の紙索を歎て。あは。親も勘當せらる。人モ小も棄  
らざ。さきハ俠者といひとも要す。其を止むる爲小被。紙索の指環も。  
圓く治る喧嘩の和談。夜を深く。某を囲み。寝たまひといひうき。

一刀取く。跨め。丈五兵衛。頷ゑ。あを戒安堵。挑灯をりてゆだ。とひる  
立を推す。め。廿日あまや。月魄の隈。起夜。却く挑燈へ煩。天明て房  
の扉くも。答へ過一交代ある。とひそく親を慰め。信乃現へ辭。別れ  
をや外面小立。まん。両へも共侶。身を起し。戸口小目送り。丈五兵衛へ  
生る。迹の樞戸を鎖。又。収盃盤をと。納め。子舎。帽を垂まで。信乃現へ  
休。そろそろ納戸。小退。睡。と。ち。程。小丑。三の鐘。錘。と。ま。ご。寝。ぬ  
枕。小鈴音。却説。その詔。旦丈五兵衛へ。とく。起。火を焼。水を汲。早膳を  
調理。信乃現へ。起。歩。候程。み。日。ひ。と。高く。昇。う。と。や。已の比。ふ。う。れ  
ど。小文吾へ。ま。裏。と。件の。両客へ。ま。ご。覺。も。大き。こ。あ。ぬ。疲。勞。坐。高  
熟。睡。ま。う。あ。う。と。ひ。ふ。そ。が。ま。あ。り。座。時。そ。あ。む。け。と。今。い。覺。て。も。う。死。比  
う。と。子舎の間。あ。障子の間。あ。立。下。と。く。賓客達。覺。ま。あ。め。や。日の

廉くゆつて。胸安小呻起せば。現へば遼一。帳うち坐。障子を推開。其へ曉方より。  
 そく管でゆべどものふせん。大塚生へ未明より。金瘡甚く。腫疼も。其苦腦も  
 亦甚し。瘡へ車か灸所を外とて。浅名をされば。転く愈んと名ひ。某はまくよ  
 腹疼ゑ。終日河風は吹暴れ。筋ゆり。破傷風ふも。某はまくよ  
 心を盡く。看病人と欲をとども。腰著の薬籠も。う。よ。そそく翁が告て。  
 相譚がやと名のふ。手代もき先老人の朝の炊を。そんを叫立んとあろ。  
 翁翁と。歐西師。あらぶ。言ふ。う。口。と。犬塚の。の  
 いづく。少黙止。至りあ。小文五兵衛うち駿だ。そくひじうれす。のう。眞夕  
 まう。が健。少。うち。暗譚する人の料が。至へ病難の。そく破傷風の。を。も。被  
 横閣を落。あ。。撲傷の疼痛も。あ。。下。さが。も。ち。め。は。患。う。て。已。も。些。を  
 ひ。す。あ。容體を。看。て。そ。と。そ。ま。裡面。ふ。進。へ。り。垂。う。帳を。頭。り。推。て。大塚  
 生。地へ。り。ふ。物ほ。う。あ。ず。や。と。問。ま。信。乃。ち。眼。を。見。ひ。き。首。を。奉。全。身。系  
 ゆ。そ。り。と。甚。き。あ。ざる。息。を。吻。翁。秋。時。夕。の。あ。ゆ。く。小。文。吾。と。あ。ゆ。ぎ。運。び。や  
 さ。ぬ。ふ。浮。世。を。潛。宿。よ。あ。重。病。小。嬰。ア。ゆ。る。これ。へ。ど。も。あ。と。人。を。笑。勞。ま。る  
 胸。す。生。少。も。死。も。天。命。す。只。も。う。擴。と。置。え。とい。い。あ。え。も。又。目。を。閉。う。  
 文五兵衛。ハ。嘆。息。く。退。く。と。た。不。現。八。み。目。を。注。せ。く。共。侶。小。次。の。間。ふ。赴。た。く。  
 膜。つ。り。合。一。声。を。潜。め。そ。そ。苦。こ。ー。死。容。體。え。護。熱。燐。小。燔。が。ね。れ。も。血。色。り。衰  
 え。虚。熱。す。と。惡。寒。も。あ。ぐ。ん。療。治。看。病。忽。う。ぐ。本。復。へ。歸。り。あ。り。と。田  
 舍。の。る。あ。り。あ。六。名。醫。良。藥。ふ。乞。け。ま。る。本。道。鍼。治。外。科。女。醫。者。按摩  
 道。引。の。類。あ。ぐ。彼。此。小。些。も。あ。や。さ。す。と。と。く。浮。世。を。潛。ふ。彼。人。を。土。地。の。醫。師  
 や。診。せ。ぐ。と。某。が。兄。う。り。け。る。那。古。七。郎。が。相。傳。せ。し。破。傷。風。の。奇。方。あ。り。と。云  
 ふ。と。う。り。う。せ。う。す。れ。ひ。ま。る。ふ。と。う。り。う。せ。う。す。れ。ひ。ま。る。ふ。と。う。り。う。せ。う。す。れ。ひ。ま。る。ふ。

久く止む。特小元んとあらと年少の男女の鮮血各五合をとて合して之の  
 唇水洗ひ洗へば疼痛り腫退る。その瘡は立地小愈。氣力も一日めぐ本復す。  
 警覺算計りて塵も拂が如り。某弱冠の比見から口傳あまび家の口碑承認  
 あ。近属小文吾が傳授せり。あまびも鮮血五合を採らるゝ人を必死ん。  
 うやもん入死ちもどりふとも錢車も威勢あるのあら。求ぐる薬剤え。あら  
 の處分りふぞや。と間へば現ハ沈吟。血洗の方善といふとも。醫療の故に仁術  
 え。かく。某が武藝の師あら。古久二階松氏の筆記小軍陣藥餌の條あり。傍書ち  
 うう方あり。且つも某が肯つむ。因て試うるも。但武藏ある志婆浦小破  
 傷風の賣藥あら。かく。試うるも。某少年あら。時同藩の某甲が  
 中田の戦ひ小深瘻を負ふ。破傷風小き。小けや。醫療その效あたず。虚鑿  
 きる薬を試み。立地小愈。うわす。あら。志婆へも五里あまん。六里りやあく  
 そん。今よりや。百永を比く。只顧小路次と急ぐ。今宵四更ゆく。つり本多。薬店  
 の名へ忘れたれ。某被刃。赴か。索當。ぎよ。わづか。と潜めだ告げ。うち占頭  
 現。あ。薬あらべ。さざき。おも金瘻あら。炎暑を犯し。遠く走す。肩黒あ  
 る。ども。在中も人の知ることあらず。余ゆく事か。わづか。悔る。たう。を及ぶ。死已漬遍ふ  
 走り。見く。小文吾を召す。渠を志婆へ遣す。とも。某が赴くとも。そ六左も右もま  
 け。と。ひく。立ん。と。現ハ急。小推禁め。哥々が今まぐ。かす。來ざら。  
 脱れぬ。立。あま。あまん。あら。いのとく。召す。と。も。山。豈今まで。被刃ふあら  
 さる。翁を足を労へ。彼れ小走す。あらとも。彼人を脅ひ。之を度。徒小時の三移り  
 輛。翁のや躬を救へ。某が微瘻。道中ハ策り。潛る途。と。吉又。あらとも。准  
 退まぐ。自由。え。見え。とのひ。あら。ども。振。足を踏立。と。示す。ふ。文五兵衛

義小勇む志を感し禁めど。お早飯を止めかづく。路費藥料を贈り  
程小文五兵衛ハ飯行李小笠小脚絆小草鞋まぐ迷もありとすと  
現八受とまく某物のよし。あひが信乃又辞別をせざる。今云云の譏めりと  
志婆へ赴くのを告べ。辞ゆく必禁なり。あらうて捨てゆがる。ふ。  
その病苦を増のせん。後小犬塚の正成乃てある翁云々と告てえと密  
語。うち縁類の尻うち子く草鞋の紐をちぢて結び。刀を取て腰に跨  
支五兵衛小辞。別とて坐深隠とうち載た背門より潜り出かけり。

卷之三  
第十四回

某崎又房八宿恨を齋セ  
藁塚小犬田急難岱緩ス

がべゑ りきど そひい そと  
文五兵衛へ現八を背門のほうへ小目送りと内へ入るとおゆみの邊に立つる人の

の事もあらず。當然信乃が病著とせし。かくやせま。と爲ひて休む。  
ぬ胸と身は暇なく小鍋を炊く白粥の量は少くある日ふそぞらすとも  
せぬ風薬を湯より勝人と貯藏のまゝ剪定する藥罐を量る茶碗の水が減  
りもんぢちわる。一盃半日をうなぎの粥と湯液を勧めども信乃も食氣あると  
とゞど藥も飲まじ現へば枕邊ふ久くよみを訝す。何れへゆくと  
問ふ。小文五兵衛の恩あらず云々と報ふる。信乃へ仰ぐ嘆息。彼人も  
てき。金瘡あり。但小人目を忌むが外の漫か遠く出あひ。縛ふるがせん金毛  
湯と湧く盛暑の真中。小老の人に芳らしく使ふ。四月から秋。よし  
きをうなぎでけり。と獨悔くねる。身の内肉が逼塞する。かの堪。枕邊ふ  
りやう後邊ふえ達する。勤る老の手むろよ。ようやく。一夏の日れ。餘も開  
頃を。未の下判。うちまほけ。文五兵衛へ下すと汗小帶布の衣を絞りてき。

上、風を入且て外面、浪花出肩。祖くもれを背負ふかゆく拭ひ。胸のわらとうに拊く歎る袖の先ひひあむ待より。小文吾へ今まを何と。をううそは者へ未遙き。齡と共よ氣の長きよと獨言く門傷へ至ゆくをと。折り足音高く走りあり。それ折り足音。そと小火あらび。走奴よ。唱うる。莊官の使。店前より。謫音。古那屋の檀那をひき。欵。莊官殿。よ。火急の要用。と。來ませ。と呼え。丈五兵衛ハ折り。と。よど。騒が。見え。と。謀。死人の。と。ある。莊官殿の召状でも。知る。と。婢兒们ハ例み。侍。と。きみ。走白病。一人も。走白病。一人も。拙郎ハ。宵の闇諭。裁判。昨夜。まよ。やぶ。還。孤。笛。笛守。と。死ぬ絶。と。且く。満。と。まよ。と。給。と。せし。果。眼を瞬。と。笛守。か。あ。緩。と。な。う。宿。所。小。を。度。の。死。と。素。と。今。ね。と。来。と。の。生。死。誘。共。侶。ぶり。まよ。と。口。管。よ。の。も。と。く。

梶。小。尻。を。手。く。き。う。丈五兵衛。ひ。と。く。安。と。ぬ。胸。裏。ふ。莊官。よ。と。呪。と。ち。彼。ふ。き。と。ん。欲。こ。の。う。歌。と。名。ひ。と。く。沈吟。と。あ。と。ん。よ。猶豫。あ。と。し。霎。時。ま。ち。板。今。ゆ。ん。と。い。ひ。ろ。と。身。を。起。一。奥。と。見。せ。と。出。居。の。障。子。の。屏。籬。せ。り。く。信。房。う。と。す。子。舍。ふ。赴。る。杖。云。と。齧。語。ウ。莊官。の。宿。所。へ。と。も。よ。半。里。許。わ。や。あ。と。ん。と。く。い。な。く。疾。之。と。日。を。消。き。と。あ。と。だ。そ。う。程。と。小。丈。吾。も。必。々。お。と。來。つ。と。ふ。え。煎。藥。も。素。湯。も。枕。迫。る。埋。火。小。火。と。あ。と。物。ま。か。不。自。由。と。け。き。が。も。且。く。望。と。し。方。せ。と。り。信。乃。ハ。枕。を。欹。と。仰。と。眉。を。す。ち。頻。車。め。物。の。不。便。歟。の。不。足。と。も。村。の。長。う。召。と。ハ。リ。口。づ。る。と。か。あ。と。秋。重。病。ふ。なり。と。あ。と。難。義。小。及。が。と。も。あ。と。腹。を。切。く。死。の。と。あ。の。首。捕。と。連。係。の。事。革。と。脱。れ。ま。と。り。と。丈。五。兵。衛。竹。あ。と。忌。と。た。と。り。と。よ。村。み。居。と。莊。官。ふ。召。と。ま。称。う。と。

巳へ客店の下りまつて四月小二度も三度も旅人の名傳を糺さう。けふもそぞく  
 の筋をきく。濱の閑諭のだけあらん。よくねがひへじふ縁故小保養志多。  
 と辞せよ。下く慰め、又外面小立ち自潔復の羽織畠草一休は左ひすだり。  
 めて。右せよ。竹の皮鞋を縁にやもみづき投げえ。誘うと下立て走奴へ眼はふ目を  
 握く。欠伸く。脱と捺り先か立ち外か坐ま。文五兵衛ハ店前より簾二枚縫  
 望す。餘生す端戸と引よせくうちつむ核と莊官の宿所を投ぐいとたる。さる  
 を。程小大田小文吾ハその夜さす。塩濱小姓をて。閑諭の為体と向究め。恥て市川  
 ある。山林房ハ許人を賣りし和睦の義と相諭さる。その人なり。來く房ハ宿  
 所小在す。ゆだくさんもあ且ほどのひふとめうは双方を和睦。次の日又  
 市川へ入を遣す。金けども。房へ竟ふ來ざら。ス和睦ハ後日のるのみ。傷け  
 ら至す。市川へを使興ふ衆せあるとの里入。穀傳と送て遣す。あとを荷役ふ廿  
 二日を仇小消。下浦小弟をかけり。小文吾ハ親の俟え。賓客達へりてあらん。  
 ところふる。見くも眉は絶ねが。扱ひ果る。とあく里人か。又辞り別とく家路を  
 さす。夕り先つ葉崎と字せよ。並松原を過す。折忽地後ふ人あひて。大田等と  
 呼み。小文吾呼とく。是則別人。あひて山林房へ。越の縮の麻衣子  
 萌生を。うき。排の縮緬の擴鼻襷の前巾を透させ。銀の鏡輪を。長  
 一刃を瑞降ふ。拵す。白毛絹の單羽織を細く疊て。帶ふ。朱繡の桐の下駄を  
 穿。京の性呑く悪く知りぬ。と色白ゆく。骨法鄙う。現文五兵衛が比興す  
 よく。大塚信乃ふ似て。小文吾ハ又そうち微喚。誰あらんといひ。小市  
 川の住あらゆ。神輿洗の内擇す。こちの里人。そちの里人。送ふ。此の傷を。す  
 昨夕もけのも入橋渡して召したまひ。も面出せ。まよとく他人のひじらひ。

和主正内が分身だいを骨折こつくやう處ところ半治はんじめめ。とひのせも果たます冷れい笑わらひそゑそゑ骨ほを  
折つる。ああままとと今途いまよく。けび敵かたひ浅瘻あざ。市川人いちかわへ二人ふたままちのく、  
稟うう瘻う。事こと実じ等とう分ぶん小理こうりををく。虎とらももせを引ひく。和主わらと已おへ  
鷄けい鍋なべ内うち證あてのゆ益ます。移香左いきこうざね御ごみもああん。被截判ひさいばんの片かたを打う。房ぼうを  
安房やすはの兄お小怕こひもも知しり。もも知しりぬ負おいと受うけととせ。と世間せせんの人ひとの爲ためてて。  
又また一い郷ごう又また姦債げんざい。背負せふく退のても路じへ。死死ても名折なめく。生うての耻辱ちしょ。今  
時ときも確執かくせきの種花しゅはををう。房ぼうが立たぬ思おも按あん決けめ。搜搜さうさうせよ。立たれど  
些すこも騒さわがき房ぼうへままでそろこの僻案へいあん甲かつひつひく。うけととまへ。元も打うともの爲ためせえ。  
一夜よ一日ひもも來くまま。そろそと達たくくああきとと。送おととままと花はなををだ。と  
のあをき聴き。袖そで卷揚まきあげ。そその秋あきかかと秋あき俠骨けいこつの捐けす。已まとと。不ふ可か  
投なげくくももととだ。と侮むらき投なげくく故ゆゑ事こと來歷らいり。もも知しとと。工くわづづ。のの日ひ

八幡やわたの暗あ相あ模も美事めじ和主わら小負おい。且よ生涯じ涯王儀おうぎ小足踏あしあ。と名なの絶絶個こ乃  
小こく。ととのの。ととのの。相あ搜しゆ取く。剃そう月額げき砧はと相あ親おやの異見いじみをを外はず。ととけけままで  
惜く額髮がほ剃そ落おち。吉冶よじ郎ら。倘ま出で士し。ああらら箭はとと栗くり。殺心さつじん入い道どうせせ。ととよ。とと  
三さん小出こだま房ぼう此度しどの確執かくせき相あ搜しゆの日ひよ。怖氣ひきづづ。生う一い里り小肩こひ入い。ととう  
潰つぶよよとと。とと。釋迦しゃか。還俗かんぞく。夫婦ふうふ。素す。合あせ。女房めいぼう。のの。  
阿舅おきゅう。とと。黒白くろしろ判はん。覺期かくき。とと。競くじ。葛くず。争あ。とと。そそき。入り。連上れんじょう。欽けい  
額髮がほまで剝落はだれ。得度とくど。和解わかい。別べつ去よ。ああけ。男お態たい形ぎやうとと。ととう。人ひとふく。相あ搜しゆの恨うら恨うら。參さん  
法ほう。返かき。とと。大お人ひと氣け。け。の。吾われ。身み。とと。い。ふ。う。あ。と。想立おもだて。不ふ可か。今  
宵よ一宿いっしゆく頃ごろ。和解わかい。別べつ去よ。ああけ。男お態たい形ぎやうとと。ととう。人ひとふく。相あ搜しゆの恨うら恨うら。參さん  
脱だつ。今いま。ああ。放授ほうじゅ。と。教團きょうだん。後あと。蹴け。腸は。裳は。腰こし。端は。折は。高たか。被取ひとり。  
小文五こぶんご。今いま。とと。沈吟しんぎん。とと。あ。又また。入い。争あ。ふ。揆授くいじゅ。とと。十。分ぶん。ふ。そ。う。う。う。



面をかくと門へ取うち袂を放ち斯く起坐と身を反て刀と見せりと拔  
く。傍推田く手を拔せしと顔つぐとうち日戌正そきと酒ふ迷うを  
物思程の變る死矣。人を殺せば身を殺せ親の歎がも子のものもひみ  
あら。と窘く取うち袂を衝放せばゆく遍く下駄脱捨小文五口小怯  
まく。飲生解扱ひ胸悪一和郎の何時房ハ小酒を盛て醉し。親の歎を  
子のるも薄く期へる一生懸命とく勝負を決せよとてあす綾る汗と  
共々玉散る如た刀の光と又抜きと詰よどと。小文吾も今へ堪れず共々  
抜んと手を掛る。愕際見盡く親の慈悲被紙索ふ禁らきく怒ともか  
め歎め房へ何ともいひり小文吾ハ一個の親ゆゑあらき父の命ゆゑ然ぞ歎め  
ゆく。房へ呆き果て。笑ひと呵くとも笑ひ長毛刀を光らても  
要緊の時ハも拔むその咎のるもあらず。且ま紙索が當め。こむうり

刀がつとうへ。俱小巻の袖まで打わづく運を試んと來よ進めと諸肩推  
祖き足踏鳴うり立對とも小文吾ハ被らき一指の紙索のいと惜さふ立在る  
姿を又死頭と低く見えまじ房へも。と刃を下へ又驟然とくも笑ひ小文  
吾もとく立合ふる相撲とちぢく希がまう勝負も小巻ももそろへた。故男態ハ  
大至うても垂木つたの燈籠。甜風又うだりをすく味ひき。かうやとの臆病者と人を  
しく打ちあがなうく小こぶ巻を穢さえ是を啖へと足を起へと向脇撲地と尻居示  
蹴居く上足を肩よ踏被。小文吾ハ片膝を衝くと手と抗てその足楚  
え。親共不孝の子とあざけ友ふハ不信と疎まく昨夕立と抗言も紙索も彰  
ら。破くじとひえせどかうぬぬを人をもあとも恨の涙。泣せしと汗ふ紛ら  
し。やう歳を髪の乱髪顔を背けくつねがう。當下樹蔭小躲ひ。緯のゆうを

覽るにあはれ是則謙吾の修驗觀得なり。滿面小笑あがみ見せゆくと禹歩ふ  
ほどよひ近づくよりよまん扇を頬と推敲きく房へと堅ふあるを横めわざて  
背筋相違變つて心地より。かくともいぬる日の相撲の恥を雪だつて奇妙  
と小鼻を張り。譽も房へ誇ほよ全體八幡の相撲も負る筈で全勝した。  
俄頃ふ轉筋り。思ひ及ばず我ぞ此奴が力名。先方も先途の腰愈ふ些踏足  
と被り左足をあろく立胥も観得へちそく。頬さし歌坐へ西二歩遙巡  
と頭をうち掉のあへをまぐいとねり。一口ぬふ頬りや煙し窮屈へ追々をも  
和敷が十分もそのへ直バ吾脩が百遍踢ふよう。格別ふ痛つて尾垂曳大田へ  
打采す。あまきこの傍ふうち措く例の酒肆ぞ一献酌ひひまよ。説く房へ  
衣領を歛めく脱捨へ下駄穿をうえ又小文吾が筋を近く立すまく信と疾視  
大田こすでまき清めぞよのびるのあわすども。それより今宵ひぬといえ。

りを之をせんと只り寢刀あつて候てゐよ。その折苗守を使事ひとと憎さげふ  
期を推く先ふ立ち観得どもち見てゆふ市中の酒肆へとてそ伴る且くと  
小文吾ハ頭を擡げて代へん仰くおの傍く又夕どもあひ安らうぬ公付芥搔  
流を汗の麻衣あさす。きこぶる者ゆそとやうなくふ立あぐらく裙ふはく  
沙と拂ふく襟うな合。さかのとも房へが日ナラふ似けあひ無法の舉動八幡の  
相撲を根ふくりと身と親をも忘却え物の勝負ハ争ひの端緒と知れど名を  
好む誓と釣るハうゞく世の人情といひうゞ原を他人の争ひを身ふ引受  
妹夫と。やや怨を結び。皆是吾脩の行徳あらえ渠りうなやま狂士とも  
打倒さん。難くもあぐね。歌ひふあるの親の戒。知ぬ妹へ兄が慈悲至れり  
五の車ハリ才半分のうなづ。おのあらを入れて笑ひもまぐ挾めもせん  
相撲ふ負ぬ。さればも只勝て六馬鹿者の無法あらえと嗟嘆しき。舌れ鼻を

乞捕の再び歩をいそぐて邁と僅か三町をくろと藁塚のぼくをより捕ひの兵  
八九人を族々と走り生々逃げて遣へどと捕龍う。おひきあれるあれば小文  
五只を放馬たまく候邊ふ紅く花きれう。帕瘡樹と小盾ふど某犯せる罪あら  
口ひ入を認違ふ捕ま衍ひのそと辞せざる陳をまぶかをれ小文五口争へる  
と声高す小呼子く野獣束せし一個の武士この地の莊官十鞆檀内を先余  
立し文五兵衛を御捕すと駿兵ホヌ牽せし物蔭ふと顕ましを小文五  
吉と刃々く角び駕、親の縄曳ふたもそものふとぞく其如小つ  
とよ六件の武七ハシモ一そと間近、立對ひかまと小文五口是許我殿の御  
内ゆく武首長を氣る新織帆太夫敦先うる成識をや癡者大塙信乃とひ  
あきのハ云ニのふ小しやまく脚所を騒し奉す。捕ひの兵犬飼見八と組毬すく。  
芳流閣の屋の棟より河原面小轍だし。船の中不滾落く迹を暗し落じて至  
る船あく。その人す。おのふ信乃へ見ハと水中ふ推投く陸下り逃れま  
さく。市中村落をちも形く竊小穿鑿をてけふ汝が親古那屋文五兵衛が  
多き。おんべきり、おとよ。ひくけさくも。おのひくとく。おのひくとく  
せす。此彼共小武士うまと緯詳小竹えくとよりてあ下文五兵衛と莊官許  
召のほく。彼旅客の相貌骨法又その滯留の事の趣旨取ふ質問ふ返答  
甚胡論す。おふ疑を累れば彼滞留の旅客こそ正しく大塙信乃をめを  
傷文五兵衛も亦是同罪である。犇と縛め。兵共ふ牽牛立さず。



三失處説ゆく。夕泊旅客うち家搜をすとぬ。外便をひそへせん。暮き板  
戸の低た擔。豪室も賤なり。城廓證据分明。あらうかうの小販え隠主家  
の内と隈り。ゆき搜さまえよ。やうれ恥ゆひも。数ならぬども一丈夫人ふ俠者  
とのれ。名と惜め歎なきも。なれ餘あらの小さん。加旗の癖者。きし帶苗  
志。武藝勇力捷まる。大刀風あらび銳え。やうべヨヌ勢力をりそくとも。  
捕逃さず。とくとく。二十六計欺詐を若とす。兎隊勢と遠離。某ふ任  
一多ひ何賣も親のゐ。むと宿所小立久。その旅客うちは在るべ。詐計  
搦捕。縦その便をひらき。酒代強く醉臥させ。寝首を捕て。献て。の様へ  
り。とくらしく當坐と脱す。才子の辯舌。説賺。と。帆大夫。然へること  
打頭。汝が意見説得く理あ。信乃へ。万夫無當の二男あや。ふる隊兵未  
砍き。此度も亦ぬ捕矣。毛を吹く痴を求る過失を。首をあわす。現後





とひどきあらざれ。此の事は、  
ある行燈小卓（ひだり）で手てうろこ一箇（いっしょく）へ店前（みせまへ）をまえ一箇（いっしょく）へ引提（ひき）て子舎（こや）へ赴く。小覗（こくわ）へ  
立たれて、信乃只（ただ）ひとり病臥（びやく）。うそひふと驚萬（けいばん）なす。まづその中（なか）を訊く。信乃へ  
まづ即く起きてよも。その余瘡（よさや）の暁（あけ）がす。猛不腫疼（めいふしゆう）。苦惱堪（くなんかん）。又現八葉藥（はちやくやく）  
求んと。臂（ひ）、武藏（むざう）、志波（しふ）、蒲浦（がほう）、小笠（おがさ）と信乃へ後（あと）から知る。又文五兵衛（ぶんごひょうゑ）、蓑襄（みやきやう）、小莊（こしょう）  
と。官許（かんきょ）。とてゆくのを生まふ。呼吸（こきゅう）。声細（こまほそ）。小文吾（こぶんご）ハ憂（う）のゆみ又  
一層の憂（う）。とて乞（うそひ）。限（かぎ）まとい。親のゆみさうえ房（ぼう）へまでも報（ほう）を便（びん）。  
けどもさやげき。想めく。虚（うつ）く火を起。殊（こと）を烹復（ひきふく）。勸（すす）め信乃へその疼痛の  
些（すこ）。ちてりへ。並（なが）て縫（ぬい）。小著（ちやく）をとう折（ひく）。店前（みせまへ）を廉（まね）を掲（かか）。誰もとてびやくをう  
そひと呼ぶ。裡面（うちめ）へ入るのゆ。まつは是何人ぞ。其次の巻、小解（こげき）をと刀を知る。

里見八犬傳 第四輯卷之二終

